

平成19年度 第4回松山地域協議会会議録（概要）

日 時 平成19年10月29日（月） 13:30～16:08

会 場 松山総合支所 講堂

◎出席者

1号委員 齋藤 勝 富樫 茂 阿部 茂 齋藤 尚 今田 充代
佐藤 ゆき子
2号委員 山中 俊 土田 迪子 齊藤 薫
3号委員 遠田 聡 佐藤 洋子 木村 美津枝

松山総合支所 支所長 後藤 吉史 地域振興課長 新館 篤
市民福祉課長 大場 昭一 建設課長 川田 進
産業課長 難波 富也 教育振興室長 須貝 彰
地域振興課 課長補佐兼地域振興係長 阿部 みえ
主任 佐藤 伸 主事 乙坂 哲也

◎欠席者

1号委員 寒河江 久也 小田 和夫 須田 良

◎傍聴人 なし

◎議事日程

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 会議録署名委員の選出
- 4 協議事項
 - (1) 平成20年度地域づくり予算について
 - (2) その他
- 5 その他
- 6 閉 会

1 開会・・・進行を務める地域振興課長が開会する。

2 あいさつ

(会長)

第4回目の協議会ということで、当初予定されていた3回を越えてしまったが、重要な課題があるため開催の案内を申し上げた。前回はタウンセンター構想と地域づくり予算の二つの課題についてご協議いただいたが、今回は主として20年度の地域づくり予算についてご協議いただく。地域の活力が生まれるよう良い知恵を出していただきたい。

(支所長)

地域づくり予算については、本日の地域協議会の意見を伺ってからの要求となるが、予算編成の方針が少し明確になるまで時間を取っていたため、今日の開催になったことをお許しいただきたいと思う。

合併してちょうど2年が経過しようとしているが、協議会において活発な意見を出していただき、合併による成果を生み出すための方向付けができるようお願いしたい。

3 議長及び議事録署名委員選出

○地域振興課長 会議録署名人の選出について協議会施行規則第5条により委員1名を選出する今回の会議録署名人を佐藤洋子委員にお願いしたい。

これより会議の議長を協議会設置条例第6条第2項により山中会長にお願いする。

4 協議事項

(1) 平成20年度地域づくり予算について・・・地域振興課長説明。

○山中会長 意見等ある方は出していただきたい。

○齋藤(尚)委員 ふれあい松山交流事業では、従来どおり3つの松山会との交流のようだが、前回の会議時に、協議会の委員の中からも参加させてみてはどうかと話したが、そのことが含まれているのかどうか。また、その会には旧町のどういった方が出席されていたのか教えていただきたい。

○地域振興課長 先日行われた酒田松山会には地域協議会会長に案内があったということである。東京松山会、鶴岡松山会については、それぞれから案内が来た段階で、その旨の連絡をすれば、協議会委員の参加も可能であると思う。しかし、東京松山会については往復の旅費も伴うわけで、その部分は公費での対応は考えていないため自費参加となる。どのふるさと会も参加者が不足してきたという話があり、できるだけ幅広く呼びかけをしていくことで支所内でも協議したところである。

○齋藤(尚)委員 事業の趣旨は何なのか。主体となるのはどちらなのか。

○地域振興課長 交流会の一部経費を市の方で負担している。主催するのはそれぞれの団体で、内

容等を検討して、こちらに呼びかけをしていくということになっている。

- 山中会長 今年実施した宮城松山交流事業は盟約25周年ということで特別事業として取り組み、各団体で交流を実施した経緯があるようだ。11月の初めにまた、宮城より芸術団体が松山に来るようだが、なにか情報など入っているか。
- 地域振興課長 今年実施した宮城松山交流事業については、平成20年度の予算には入っていない。東京松山会、鶴岡松山会、酒田松山会の3つの団体が交流事業を実施する予算となっている。齋藤委員の先ほどの質問にお答えするが、東京松山会はこれまでの経緯を見てみると、合併前は町長、議長、担当する職員、商工会、組織の団体代表の5人ぐらいで参加していたようである。合併後は、元町長、元教育長、商工会代表と狭い範囲での参加呼びかけとなっている。
- 富樫委員 20年度の地域づくり予算が文面化されてきたが、19年度の事業で廃止になった事業には何があるのか。
- 教育振興室長 公民館運営事業が生涯学習課で予算計上することになったので、教育振興室の地域づくり予算からは外れている。
- 山中会長 地域づくり予算は、総括的に松山地域に関連したソフト事業に関する予算で、このとおり要求したいという意思表示は理解しているが、所管課ごとに要望、要求する手法になっているのか。
- 地域振興課長 総枠の事業費が前年比5%ダウンで本所から松山の枠が提示される。今回の会議を受けて、提示される予算額に合うように事業を調整しながら予算額等を検討していく事務手法となる。今回、どの事業にどのくらいの額を使うか明確に出来なかったことをご容赦願いたい。
花いっぱい事業においては、植栽回数や花苗の本数を減らすなど、工面をしながらこれから調整していきたいと考えている。
- 山中会長 地域づくり予算はソフト事業だけになるが、山田1号線の改良等、松山に関する事業を総括的に出してもらえば一番わかりやすいのだが。
- 支所長 地域づくり予算に計上される事業は、松山に関するソフト事業でハード事業はまったく含まないものである。予算は本庁担当課が持つのが原則となっている。その中でも、今まで松山独自で行っている事業について、酒田市全域から見るとバランスを欠くものもあり、それについては地域づくり予算の中に計上し事業継続してきたものもある。20年度からこの地域づくり予算が枠内予算に入ったことで、支所の自由裁量が大きくなってきたが、枠は決まっているのでしっかりとスクラップ・アンド・ビルドをしないと切り切ったことはできないと考える。
中通り1号線は来年度へ繰越しになった。松山に関する事業を総括的に示して欲しいということだが、本所の担当部局が部長権限で予算要求していることもあり、全てお示しすることはできないと考える。箇所付けまではっきりしてくるのは4月以降となる。方向付けは2月頃に決定をするが、3月議会を受けてからお示しすることになる。
- 山中会長 統合保育園の問題もあるが、その予算についても情報を提供いただけないということか。

- 支所長 答えられる範囲でお答えはするが、そのあたりを少し仕分けしていかないと地域づくり予算の協議とはちょっと違ってくると思う。
- 富樫委員 公民館運営事業以外に廃止した事業は無いのか。
- 地域振興課長 宮城松山との交流事業は25周年記念として今年実施し終了しているため、20年度は要求しない。花いっぱい事業は新規に5自治会へ花苗を提供する予算を設けた。業者へ委託する部分は事業内容を調整し行っていく。
- 産業課長 産業課所管のものは19年度と同じである。
- 富樫委員 大崎市との交流事業は実施しないということか。
- 地域振興課長 今年度の地域づくり予算に計上していた部分はあくまでも盟約25周年記念事業に対する経費である。来年度からは、これまで通り各団体で交流を図っていくことになる。公費は入らないということである。
- 齋藤（尚）委員 30周年のときも関係しないということか。
- 地域振興課長 30周年は大崎市が当番となるので、これから大崎市との協議の中で検討していくことになる。
- 土田副会長 鹿児島県志布志市との交流はどうなっていくのか。
- 教育振興室長 志布志市との交流については、合併前の自治体同士の盟約ということで、しばらくは継続していく方向で考えている。
- 土田副会長 地場産品振興事業において鹿児島とか宮城にも新しく交流を持つことはできないのか。青少年国内外派遣事業で子ども達が交流をしているわけなので、その部分を生かした物産交流ができるのではないか。
- 産業課長 宮城県との交流については、各団体や産業サイドでも行っている。検討課題とさせていただきます。
- 支所長 補足させていただきます。桐生市との交流については、商工会が交流事業を行うための助成である。松山支所が先導して行っているという性質の事業ではない。
物産については宮城にも鹿児島にもこちらにあるものはほとんどあり、物産交流という形では取り組めなかった。大崎市については異常気象で種籾が少ないときに支援をした経過はあるが、それ以外での農と農の交流についてはなかなか見えてこなかった経過がある。
- 山中会長 地場産品振興事業で桐生との交流について、人的な交流だけでなく特産品の販売促進を図る気持ちでの交流というものに切り替えて行うことはできないものか。また、地場産品を使った特産品づくりの促進とあるが、地場産品とはどういったものを想定しているのか。また、事業の戦略、構図はできているのか。
- 齋藤（尚）委員 桐生市とは歴史上のつながりがあるのだから、もっと交流を盛んにしているほうが良いのではないか。歴史を考えた上で交流を進めていくと非常に良いものになるのではないかと思う。桐生市との物産交流は拡大して実施していただきたい。
- 産業課長 物産を含めた販路拡大を松山地域だけではなく、市全体としても拡げていけないか本所とも検討していきたいと考えている。特産品というのは新しいものを作ることだけが特産品

ではないので、平田の赤ねぎのようにどこに着目するかということが大事だと思う。今あるものや昔あったものに着目するのも特産品開発の一つの手法だと考えている。松山は庄内麩の産地であるが、以前はおつまみなどの開発などを行ってきた。東京などでは食べ方がわからないという話も聞くので、もっと色々な食べ方があることもPRし、これを特産品にしていきたいと考えている。また、塩せんべいなど以前あったものに着目するなど視点を変えて特産品を作りたい。

○富樫委員 支所としてきっかけづくりがどこまでできるのか。商工会が独自に企画したものに支援し、人手が欲しければ、手伝うといったような感じに受け取られるが、それでは地域の振興にはならないと考える。経済効果や物流を含めて考えることは大変だと思うが、具体的に芽が見えてきたときに民間に移すなどきっかけをつくってやることは行政の役割であり、今の交流の仕方が良いのか整理すべきではないか。特産品づくりも熱心な方々がいないと行政で進めていくのは難しい話である。

○支所長 特産品開発、地場産品の振興については地域の活性化も含めて、松山地域にとって非常に大きな課題だと考えている。松山支所として何ができるのかをこれからも考えていきたい。

松山の特産品であるおぼこ梅は、今回は梅酒として醸造会社2社とタイアップして商品開発が進んでいる。行政として直接売り込むことは難しいが、つなぎ役として経済の活性化を図ることが行政の役割であると考えている。

○富樫委員 生涯学習推進事業の中のホタルの里ウォッチングについて、山寺コミュニティでも20年度予算で研究班を作りホタルの里づくりに取り組もうと考えている。去年の地域協議会の中でも地域振興課長が20年度以降に整備も含めて検討していくと答弁している。内容としては、ただホタルを見に来るといったソフト面だけではなく環境整備などのハード面も考えているのかどうか、内容をお聞かせ願いたい。

14:35 休憩

14:45 再開

○教育振興室長 ホタルの里ウォッチングは平成19年度から取り組んだ事業で、山寺公民館事業とタイアップして立川にホタルを見に行ったり、地域の人からホタルの話を聞いたりと実施したが、平成20年度も地域づくり予算の中ではハード的なものはできない。実際に子ども達からホタルを見てもらい、松山地域でホタルの里づくりとして何ができるのかを考え、これから勉強していきたいと思っている。内容についてはこれから検討していきたい。

○地域振興課長 ホタルの里については、山寺地内の大溜池以外にも松嶺地区内でも気運が高くなってきている。やはり、ハード面の整備も必要だという意見も聞いている。関係者と協議をしながら、ハード面とソフト面を分けて計画的に事業に取り組んでいきたい。

○富樫委員 大溜池の周辺は官地であるため、山寺コミュニティとしては地域住民がどのように使えばいいのか、構想づくりを1年かけて行うつもりである。その中で相談窓口などを支所に設

置してもらえるのかどうか。地域からの要望も出てきているのでよろしくお願ひしたい。

- 地域振興課長 地域振興課が窓口となって、教育振興室や産業課と協議をしながら進めていきたい。
- 阿部委員 場外馬券発売所周辺美化事業について、酒田から入ってきた場合、松山の入り口になるわけだが、交通島の植栽については何となくつじつまが合わない感じを受ける。植える敷地面積の半分が雑草となっている。引き受ける方が半端なのか、引き受けさせる方が半端なのか。生涯スポーツ推進事業で親善スキー大会や市民体育祭がここに載っていないが20年度は事業を実施しないということなのか。
- 地域振興課長 確かに交通島の植栽については色々指摘を受けている。相沢側から右折する場合、そこに植えられている花が交通の妨げになると苦情がきていたこともあった。松山地域では7箇所くらいの交通島に花苗を植栽しているが、相沢の所は正直悩んでいる。植える花の種類もそうだが、植える面積も広いので経費も多くかかる。相沢地内の交通島については工面をしていきたい。内郷地区の方々に松山の入り口なので協力をお願いしたいということでボランティアをお願いしたこともあったが、なかなかいい返事をもらえず事務局としても苦勞した経緯もある。
- 富樫委員 新規の内容として、5つの自治会に花苗の提供を考えているということだったが基準はあるのか。また、相沢地内の交通島には芝生を入れるべきだと思う。芝生を入れても花を植えることもできるだろう。地域の人たちのボランティア感覚を誘発することも一つの手と考える。
- 建設課長 交通島の管理に関してお話しするが、基本的に相沢地内の交通島は国道345号線沿いなので山形県の管理となる。そこに花を植えたいから申請して植えさせてもらっているのが実情である。その際、何センチ以上になる花は植えてはいけないという規制がある。コスモスを植えたときにお叱りを受けたのはその規制のためだと思う。雑草が伸びきっているということであれば、他の道路と合わせて県にしっかり管理していただくよう強く要請していきたい。
- 支所長 市の事業として、市道も県道も花できれいにするというものは市には無いのが実情である。議論するスタートから違うと議論をしてもかみ合わなくなってしまう。松山地域で今まで頑張ってきた事業を花いっぱい事業として残した。それを理解しながら議論していきたい。
- 山中会長 山田1号線には花は植えないのか。
- 建設課長 両側に歩道があり、そこに植栽帯を設置してあるので、どういう花の種類になるか、また管理がどのようになるかはまだ不明だが、樹木や背の低い花などを植えていく計画になっている。
- 山中会長 樹木の植栽については、昔、大川渡から地見興屋へ向かう道路の横に樹木が植えられて交通の邪魔になった経緯もあるので、山田1号線の場合も十分留意を願ひたい。従来はアメリカフヨウできれいに植栽していたが、高さが高さなので人がしゃがむと見えなくなるという指摘もあった。安全面にも配慮して花の種類を検討してほしい。

- 教育振興室長 先ほどの阿部委員の質問にお答えするが、生涯スポーツのジュニアスキーの関係は、19年度は要求の段階では入れたが学校の授業で行う性格のもので地域づくり予算にそぐわないということで予算化はされなかった。現在、学校教育課と協議している段階である。市民体育祭や駅伝大会はまちづくり事業に多少の予算は計上しているが、体育振興会からの助成金をもって充てている状況なので、この予算の中には含めていないという形で整理させていただきたい。
- 地域振興課長 富樫委員にお答えしていなかったが、自治会への花苗の提供に関してだが、1自治会に花苗を300本程度提供するという考えがあり、これを大体5自治会を想定しているということである。業者に委託していたところを自治会に植栽や水管理をお願いし、花いっぱい事業を市民と一緒に展開していきたいと考えている。
- 富樫委員 前置きは無いのか。松山地区には42自治会あり、それがすべて取り組むということになると競争率が上がるが。
- 地域振興課長 道路敷地美化のための花苗提供である。
- 齋藤（尚）委員 眺海の森音楽祭について、人づくり、音づくり、物づくりなど地域づくりにはさまざまな要点があるが、松山地域の人を育てるということとはできないものか。音楽祭を開催し産物を売るとか、そういう仕組みづくりができるかと盛り上がってくるのではないかと思う。様々なものを兼ね合わせる祭りにしたら街が活気に満ちてくると思うし、人が集まってくると思う。例えば、定禅寺ジャズ・ストリート・フェスティバルみたいなものになればと思う。
- 産業課長 大変貴重なご意見なので参考にさせていただきたいと思う。ただ、夏のバンドフェスティバルについては、地域で一生懸命に活動している人へ演奏する機会を提供することも目的の一つなので、PR不足の面もあるが物販も含め周りの意見を参考にして実施していきたい。
- 齋藤（尚）委員 事業には目的があるわけだが、どの辺に目標を置いて事業をやるのか、人を育てていくことも含め考えていく必要があると思う。
- 前回の会議で出た観光看板についてだが、資料に地域観光マップなどとあるが看板やパンフレットを作成する計画と見て良いのか。
- 産業課長 地域づくり予算の中では簡単なマップづくりに力を入れていきたいと考えている。委員からお話しのあった看板については相当額のお金が必要となるので、本所の担当課と協議して進めていきたい。
- 今田委員 眺海の森市民映写会はどういうものを考えているか。
- 教育振興室長 屋外音楽堂で夏のひと時に星空の下で、子ども向けのアニメ映画を家族で楽しんでいただきたいというものである。
- 今田委員 入場者はどれぐらいいるのか。
- 教育振興室長 去年もそうだったが、今年も雨だったので屋内で開催した。人数は把握していないが、子ども達も楽しみにしているようなので、許す限り、続けて開催していきたい。
- 山中会長 この後に、前回のタウンセンター構想について少し時間が必要になるのか。
- 地域振興課長 現時点での情報を提供するので少し時間をいただければありがたい。

- 富樫委員 地域づくり予算のメニューはわかったが、額の配分は事務局で行うということなのか確認したい。また、20年度の枠はいくらぐらいになるのか。
- 地域振興課長 19年度予算で1,200万円程度だった。アメリカの交流事業で200万円程度増えるが、宮城松山交流事業で若干減額になる。そのような増減を踏まえておおよそ1,000万円ほどの金額になるかと思う。10月いっぱいで大枠の金額が示されるので、それに合わせて委員の方々からいただいた意見を基に事業に振り分けていきたい。
- 支所長 枠内予算になったことにより、増減を勘案して、枠がいくらということで示されるので、そこから各事業に割り振るといった形になる。

15:25 休憩

15:30 再開

(2) その他

- ・松山タウンセンター構想について・・・地域振興課長説明。

- 今田委員 Aコープと隣のガソリンスタンドが廃止になると聞こえてきたが本当か。
- 支所長 農家の方々は懇談会等でJAみどりから廃止という話を聞いているかと思う。背景としては、JAみどりが将来土地を買収するという約束でこれまで土地の賃貸借契約を繰り返してきた経緯がある。それがなかなか進まない中で、地権者の方から借地返還の話が出てきたようだ。賑わいという観点からもAコープの撤退というのは非常に困るということは申し上げている。我々としては、タウンセンター構想の賑わいの中にAコープもカウントし協議していく姿勢でいる。
- 富樫委員 支所を信用金庫跡地に増築するという事なのか。
- 支所長 まだ最終決定はしていないが、そういう方向で考えている。具体的に信用金庫と話し合いは行っていない。
- 富樫委員 人が集まれるような施設を持つことを重点にしていかなないと市民から理解してもらえないと思う。
市では20年度に公民館を廃止し、21年度にはコミュニティ化をするような動きがある。八幡も平田も中央公民館制度を廃止すると言っているが、建物は残るので活動の拠点にはなる。ただ、松山地区にはそういったものが無いので、生涯学習の機能も持たせた施設として支所を利活用していくようにしてほしい。
- 支所長 松山には、農村環境改善センター、健康福祉センター、まつやま会館、里仁館がある。これからの里仁館のあり方も考えながら、生涯学習についても視野に入れて考えていきたい。支所の機能がどうあるべきか議論をしているが、支所の職員数については減少させていく方向であるので、その点を視野に入れながら検討していく。統合保育所については、20年度、21年度の事業で取り組む予定であるので、12月までに一定の方向付けをし、12月議会に提

案できるよう進めていく

・コミュニティ振興会の立ち上げについて・・・地域振興課長説明。

- 阿部委員 最後にネックになるのが人件費である。これまでと同じように公民館を維持していくには、人件費が400万円は必要と考えている。
- 山中会長 組織機能が発揮されるような手法を講じながら財政面でもそれ相応のことを考えていかなければならないと個人的に思う。
- 富樫委員 ただ公民館を廃止してコミュニティを立ち上げることが目的ではないと考える。公民館廃止は地域の活性化に大きく関係する問題で、今の地域にとって地域づくり予算を協議するよりも大きな意味を持つと思う。このまま市の考えていることが実行されるのであれば、かなりの住民負担も出てくると考える。行政として何のためにコミュニティ化を進めるのか説明が無い。地域に自主的にやりなさいというだけでは進められないことだと思う。市民の生活に直接関係するものまで、合理化を強要するというのはおかしい話である。税金をむしろそちらの方に使うというくらいの考え方を持ってもらいたいと私は感じている。
- 今田委員 婦人会などの各団体への補助も少なくなっている。補助金が少なくなり、地域の活動が思うようにできなくなってきた。存続すら危うい団体もあるようだ。
- 支所長 コミュニティに切り替えたいという市の施策だが、コミュニティは地域の方々から作っていただく組織だし、その中でコミュニティ振興組織の立ち上げという施策展開を図ろうとしているわけなので、とにかく丁寧な説明をしていきたいと考えている。
- 山中会長 そういう姿勢で市民に接していただかなければ、短期間で地域が崩壊してしまうのではないかと。婦人会など様々な団体を維持することが大変な時代になったと感じられる。地域の現状を分析して、的確な対応をしていかなければ誰も魅力を感じない街になってしまう。コミュニティに切り替えることがベターであるという理解を得るような方向を定めるように頑張っていかなければならないと思う。各委員の方々もこの件については、よくよくご理解をさせていただいてお互い勉強していきたいと思う。

6 閉会・・・進行の地域振興課長が閉会する。